

## 学修目標

この教科では、組織学や病理学、細菌学、生化学、生理学、薬理学を担当する教員がそれぞれの専門分野における“炎症に関連する講義”を行う。各分野の講義を聴講しながら、その内容について各自がノートテイキングの演習を行う教科である。トレーニング的に何度も反復することで、理解すべき知識をノートテイキングによって自ら収集し、整理・体系化できるように“技法(わざ)”を身につけるのが目的である。

- 教科書：指定しない。本教科の趣旨にもとづいて、プリント配付も最小限に留める。
- 参考書：指定しない。更なる学修のために担当者が授業時に紹介することがある。
- 授業時間：木曜日 15:00～16:50 合計 15 回
- オフィスアワー：山崎 洋介 月曜日 12:00～13:00  
小林 真之 木曜日 17:00～19:00  
鈴木 直人 月-金曜日 12:00～13:00  
今井 健一 金曜日 17:00～18:00  
坪井 美行 水曜日 17:00～18:00  
浅野 正岳 月曜日 17:00～18:00 (教科担当責任者)
- 成績評価：定期試験は行わない。提出物を基礎データとして、成績評価表示 S, A, B, C による相対評価を行う。
- 注意事項：
  - ・この演習では学年番号順の座席指定(別途通知)を行う。
  - ・この授業中は、配付された所定の用紙と筆記具のみ使用可。録音/撮影、書籍/電子辞書や電子デバイス等は、特に許可のない場合は使用禁止。
- 準備学習：演習の趣旨に照らし準備学習は不要だが、授業時間中は“ひたすら書く”こと。
- 準備学習時間：学生間での指摘事項について確認する時間を作ること。

授業日	演習項目	担当者
-----	------	-----

## [スキルアップ]

この演習ではスキルアップ・トレーニングを都合6セット実施するが、その各々は、原則として次のような手順で進められ、2週で2件の提出物 **CKG** が生じる(6セットでは合計12件)。

## [第1週]

- ① 担当者による“教材としての講義” (50分前後)
- ② 学生は、配付される所定のノートテイク用紙 [CKG-1] に聴講内容を記録
- ③ 聴講後、取ったノートを学生間で交換し、記載内容について互いにチェックし、改良点を列挙
- ④ 学生によるアドバイスを元に、自分で改良点を記載
- ⑤ 担当者は、**CKG-1** を回収して次週までに精査

## [第2週]

- ⑥ 第1週に提出されたノートの中で参考となるもの(Selected **CKG-1**)を、学生全員に電子配信
- ⑦ 学生が取ったノート **CKG-1** を返却。精査した結果については担当者が学生に総合講評

- ⑧ 学生は, Selected CKG-1をもとに, 課題(テスト)に取り組んで解答 [CKG-2]
- ⑨ 担当者は, 第2週の CKG-2 を回収して後日採点

**[講演聴講]**

この演習では講演の聴講を2度実施するが, その各々は, 原則として次のような手順で進められ, 1講演につき, 「学生が取ったノート, 聴講サマリー」という2件の提出物, すなわち **CKG-3, 4**が生じる (2講演で合計4件)。

- ① 講演内容をノートテイク [CKG-3]
- ② 学生と演者での質疑応答
- ③ 学生は, 講演内容について聴講サマリー [CKG-4]をまとめる (40分前後)。
- ④ 担当者(&演者)は, CKG-3 と CKG-4 を回収して後日採点

授業日	演習カテゴリ	教材講義のテーマ	担当者
4月 6日	ガイダンス	本講のシステムとねらい	浅野正岳
4月13日	スキ ル ア ッ プ	I 第1週 炎症に関わる細胞とその位置づけ	山崎洋介
4月20日			
4月27日		II 第1週 ケミカルメディエーター	鈴木直人
5月18日			
5月25日		III 第1週 炎症の形態学的分類とその特徴	浅野正岳
6月 1日			
6月 8日		IV 第1週 歯周炎 –微生物 VS 免疫–	今井健一
6月15日			
6月22日		V 第1週 痛みの発生機構と炎症	坪井美行
6月24日 (土)			
6月29日		VI 第1週 抗炎症薬	小林真之
7月 6日			
7月13日	講演聴講 VII	講演テーマ： 歯髄炎と根尖性歯周炎の病因と治療	日本大学歯学部 武市 収
7月20日	講演聴講 VIII	講演テーマ： 歯周病と全身の健康	日本大学歯学部 菅野直之